

(週報巻頭言)

わたしたちの中の「奇跡」

われわれ人間は合理的に考え、理屈が通るように整えようとします。このことは否定すべきことではなく、ものごとを正しく見ていく必要な姿勢であります。

そのために学問というものがあります。天文学、物理学、数学、化学というものがあります。自然界に突然変異ということがありますが、全体は「平衡」を保っています。

ではわたしたちの身の回りをみると、いつも人間はものごとを論理的に考えているかといえば、そうとは言えないことがあります。ときには宗教も不思議なことを説くことがあります。「奇跡・奇蹟」という問題が横たわっています。

ではよくよく見まわしてみると、宗教が無くなってしまったのか？という、現代も、人々の生活の中にしっかりと根付いているのです。

人生には、祈らざるを得ないことが多くあるのです。人間は「祈る存在」なのです。「祈ったことが一度もない」という人がいるかもしれませんが、長い生涯でそのようなことはありません。

長住教会にいた時のことですが、N 兄がお連れ合いに誘われてはじめて教会に来た時のことです。「祈りは自分のために祈るのに、他者のために祈っている」と驚き。

「祈りは自分のためにするもので、他者のことを祈っているとは…」との告白でした。その方は礼拝に続けて出席し、キリスト者になりました。現在も活躍中です。

毎週の礼拝の姿がまわりの人々への証しとなり、導きとなるのです。

(山下誠也)